

しておりません。

私個人では色々な尼僧さんの会があっても良いと思っております。目指すところは一天四海皆帰妙法ですから。登り口が色々あっても良いのではないかと。

かくして「全国日蓮宗女性教師の会」は発足致しました。会を組織するにあたり当時の伝道部長でいらっしゃった田端義宏上人からの「組織は全国組織にして各管区に代表者を置かないと残っていけないよ」という御助言が大変でしたが、今となってはありがたく感謝しております。感謝といえばもう1つ、平成17年8月30日に宗務院にて初めての総会を開き、午後1時半より当時池上本門寺執事長でいらっしゃった早水日秀上人の御厚意により、本門寺大堂で発会奉告式を厳修し、朗峰会館にて懇親会をさせて頂きました。当時の参加者数・81人。このように会員が集まったのはこれが初めてでした。奉告式の法要の時に早水先生が、式衆でない人は道服でしたが「皆結界の中に入りなさい。発会奉告式とはそういうものなんだ。」とおっしゃって下さり、全員が結界の中に入り、共にお題目をお唱えさせて頂きました。本当に感動で胸が熱くなりました。早水先生のお言葉でこんなに感動的な奉告式になり心から感謝申し上げます。以上が会発足当時のことがらです。

全国日蓮宗女性教師の会 — これまでの活動と今後の展望 —

全国日蓮宗女性教師の会 会長 山口蓮香

現在、全国日蓮宗女性教師の会は、法要部・社会活動部・広報部と部会を作り、各々の活動をしています。教師の資質向上をするための研修をはじめ、身延山において、年に一回の女性教師先師法要、輪番奉仕、また、各方面様々な講師をお迎えしての公開講座等を行っています。

輪番奉仕では、自坊の檀信徒を連れて行く時のために、その時の参加者の中から導師を交替で経験しています。

そのような中、平成23年に起きた東日本大震災では、釜石の仙寿院さま、大槌町の蓮乗寺さまのご協力で、仮設住宅での傾聴活動、慰霊法要など、10年間行ってきました。

仮設での法要・傾聴活動では、被災された方々と参加した女性教師とがカラオケや足つぼマッサージなどを行い、楽しく過ごして、最後には私たち教師が力をいただいて帰ることが多かったです。

滋賀県の喜登閣教会においても、女性教師の有志による東日本大震災慰霊法要・バザー音楽のつどいも続けていきました。

その後も自然災害、人的災害も各地で起き、その度に各部長を中心に女性ならではの細かい気づきや速さで、現地の女性教師の会員などから情報を得、把握し必要な備品等の調達・発送をしました。

令和に入りすぐにコロナ禍になり、活動自粛も多くなりました。その様な中で情勢を見ながら、



研修もリモートやハイブリッドで少しずつ活動を再開して、ひとつでも教師の研鑽を深める気持ちを無くさないように考えました。また、広報部を中心に各方面にも活動内容を知っていただくために、女性教師の会のパンフレット作成などもしています。

令和4年5月22日には、宗門唯一の門跡寺院、村雲瑞龍寺晋山式に参列、諸役を女性教師の会有志が拝命しました。ここでは、女性だけの法要・声明の優しい響きに感動された方々も多く、たくさんお声掛けをしていただきました。久しぶりの対面での大きな行事・活動は参加した一人一人の心の大きな自信となり、感慨も一入であったようです。

このように女性教師の会は、僧侶としての活動を女性ならではの目線で行っています。女性教師の会のメンバーも日蓮宗の一人の僧侶です。ジェンダーに関係なく、これからも日々研鑽し仲間を作り、悩みを打ち明け、それぞれで人々の幸せのお手伝いができるよう心掛けていきたいと思っています。